

SSTK

発行 ならしの地域で生きる会

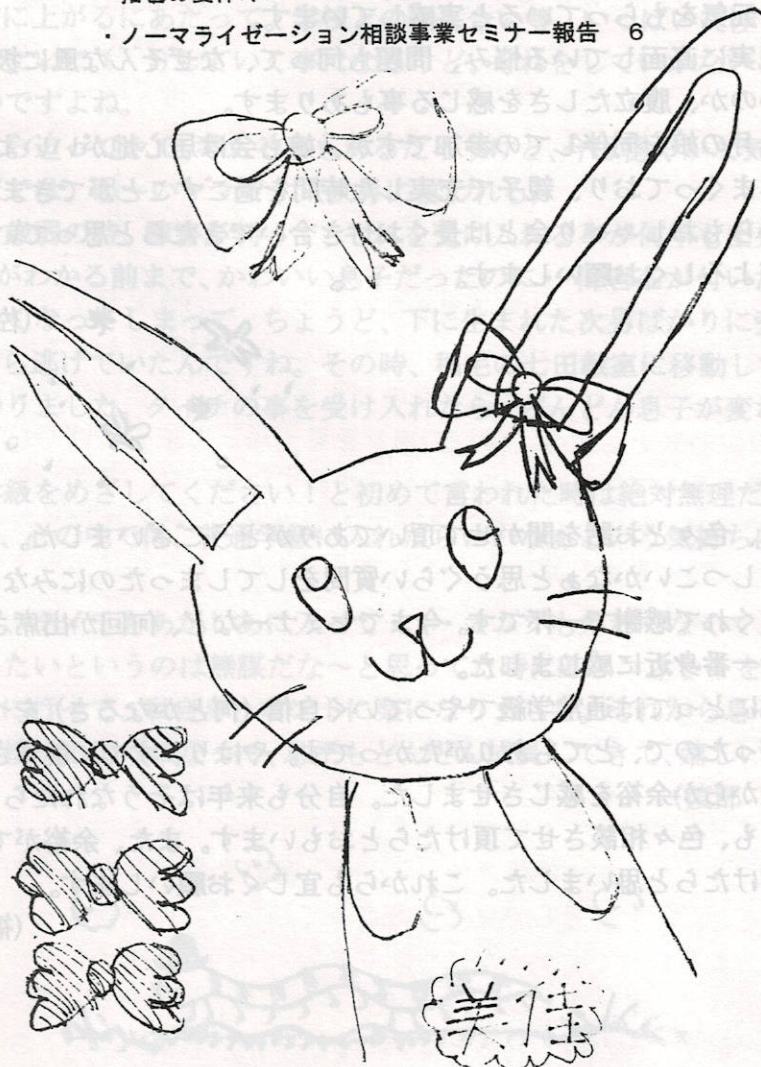
ふらっと

ならしの地域で生きる会は、
障害のある子も、障害のない子も
共に地域で学び、働き、
生活できることを願い
活動を行っています。

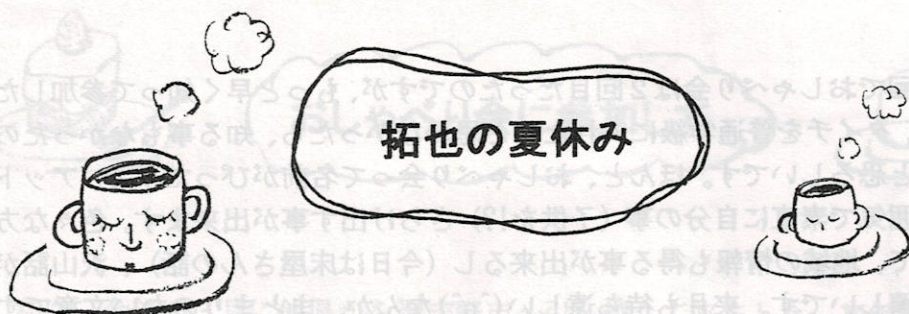
も く じ

No. 33

- ・おしゃべり会に参加して 2
- ・拓也の夏休み 4
- ・ノーマライゼーション相談事業セミナー報告 6



<http://www009.upp.so-net.ne.jp/narashino/index.htm>



今年の夏休みは北海道への帰省、また夏休み中も私は相談事業へ出かけることがあったため、留守番もあり拓也にとってはいつもとちょっと違った休みになりました。

そして、なんとといっても進路決定にむけての希望高校の学校見学！！他の子ども達は何校も見にいったようですが、拓也は市立習志野高校、一校だけを見学させていただきました。習志野高校の定時制は、今まで何人もの障害のある子を受け入れて下さっている実績があること、また今通っているお子さんの対応もとても良いと、当事者や家族の方から聞いていましたし、何よりも「地元の高校に通わせてあげたい」と私自身が思っていたからです。

8月30日、緊張のため寝不足の拓也と主人、私の3人で見学に行きました。拓也は様子のわからない場所や、見通しのきかない時間を過ごすのはとても苦手です。（一度経験すると大丈夫なのですが）もし、拓也が学校内に入れなくても、今日はOKとしよう。学校の周りを見て帰って来るだけでもいい…それを何回か繰り返して慣れていこうと心に決めていました。玄関でちょっと躊躇した拓也ですが、何とか体育館に入ることが出来ました。大好きな吹奏楽部の演奏を聞き、説明を少し聞いたところで「帰りたい」と拓也が訴えてきたので、体育館から退出させていただきました。

今回、見学をさせていただいてうれしかったことは、体育館に入り生徒の席に一人ずつきたくないと言う拓也に困り、先生に保護者席と一緒に座っていいかどうかお願いしようとしていると、ずっと近くにいた先生が二人、近づいて下さり「どこに座っても結構ですよ。どうぞ楽にしてあげてください」と配慮して下さいました。拓也は後ろで、人と少し離れた席が落ち着くのでそのことをお話すると、いすを運んで来てくださってから「この場所だと目だってしまうますが、よろしいですか？なにかありましたら何でもおっしゃって下さいね」と声をかけて下さいました。「全体会が終われば、後は自由に見学ですから」と説明いただき、その後も「暑くないですか？」と窓を開けて下さるなど、様々

な配慮をしていただきました。途中退席をする際も「ご苦労様でした」と笑顔で答えて下さいました。

短時間でしたが、拓也は瞳をキラキラさせて体育館で過ごすことが出来ました。吹奏楽部の演奏を楽しそうに聞きながら、足で軽くリズムをとってしまいました。その姿を横で見ている、「（拓也が望むなら）何とかして高校生にしてあげたい」という気持ちでいっぱいになりました。本当にめったにないことですが、私自身、感動で涙が出そうになりました。帰り道、校門の前で主人が「拓也、ここの学校に行きたい？それとも別の所がいい？」と拓也にわかるように説明しながら気持ちを尋ねました。拓也はしっかりと主人の目を見ながら「学校、行きたい！」と答えました。…拓也が自分の意志をここまではっきりと口に出すのは、普段ほとんどないことです。とにかくこの思いを大切にしたいと強く思いました。

その後、習志野高校の文化祭に行かせていただいたり、家族の普通の生活でも高校の話がよく出るようになりました。拓也本人の気持ちが確認出来たので、三中の校長先生、担任の先生にも「高校を受験させたいと思います」とお話しさせていただきました。…体育祭も終わり、いよいよ進路にむけて、いろいろな働きかけをしていかなければならない時期に入ってきたと思います。自閉症という簡単には理解してもらい難い障害を持つ拓也ですが、たくさんの方の配慮をいただきながら、まじめにがんばって今まで学校生活を送ってきました。なんとかその点を理解していただき、受け入れていただけるよう、親として何が出来るか、たくさん考えながら行動したいと思います。また、拓也の進路はあくまで拓也のもの…親の気持ちを押し付けることなく、いつも拓也の考え、気持ちを尊重することを忘れてはいけないとも思っています。

（大原 由加里）

